

1 題材について

対 象 学 年	中学校第3学年 (選択教科としての「音楽」箏コース)
学 習 指 導 要 領	第3学年の内容 A表現(1)ア、ク
題 材 名	音色の変化による箏の合奏表現を追求しよう(全3時間) 【教材名】 表現教材:「つち人形」
題 材 目 標	<p>箏の特性を理解し、箏固有の音色や響き(一音一音の張り、余韻等)、奏法(引き色、裏連等)の特色や効果に関心をもち、意欲的に器楽表現に取り組むことができる。</p> <p>(音楽への関心・意欲・態度)</p> <p>箏の特性を理解し、箏固有の音色や響き(一音一音の張り、余韻等)、奏法(引き色、裏連等)の特色や効果を感じ取り、それらを生かした表現の工夫をすることができる。</p> <p>(音楽的な感受や表現の工夫)</p> <p>箏の専門講師から直接学ぶことにより、箏の特性を理解し、箏固有の音色や響き(一音一音の張り、余韻等)、奏法(引き色、裏連等)の特色や効果を生かして器楽表現する技能を身に付けることができる。</p> <p>(表現の技能)</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫</p> <p>題材指導計画作成上の工夫(教材選択、教材配列、教材の時間配分等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年では、必修教科としての「音楽」の授業で、日本の伝統的な楽器である「箏」を取り上げ、我が国の伝統的な音楽の素晴らしさに気付き、興味・関心をもって取り組めるようにする。 ・3年生では、「箏」をさらに深く追求しようとする思いの強い生徒に、選択教科として「箏」の合奏指導を中心とした学習を開設する。 ・基本的な「箏」の表現技術の向上はもちろん、合奏活動を通して、聴く人を意識した学習を積み重ね、実際に発表の場を通して表現する喜びを味わうことができるようにする。 ・地域で活躍してみえる箏の演奏家をゲストティーチャーとして招き、箏の知識や奏法等について、より専門的な指導をしていただく。 <p>単位時間における工夫(音楽活動の基礎的な能力を伸ばす指導・援助等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1面の「箏」を用意し、名札をつけ、年間を通して自分専用に見えるようにする。 ・準備や片付けが短時間でできるよう、毎時間の最後に箏柱と弦の接点にマーキングをし、箏柱を倒して片付ける等の工夫を考える。 <p>選択における内容の設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本題材は箏の基礎的な学習をさらに発展させ、箏のもつ独特かつ多様な音色を生かしてより豊かな表現をめざすものとして設定する。 ・本時は発表会を控えた最後の授業として、「引き色」と「さーらりん」に特に注目させ、その独特な音色と奏法を実現させる。
参 考 資 料	学習プリント - 第3時に使用。

2 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
器楽				
内容のまとめりごとの評価規準	<p>【器楽】 楽器の特徴や曲にふさわしい音色や奏法、声部の役割と全体の響きの調和に関心を持ち、器楽や合奏の表現をすることに意欲的である。</p>	<p>【器楽】 音楽の構成要素・表現要素を知覚し、それらが生み出す曲想の美しさを感じ取っている。</p> <p>楽器の特徴や曲にふさわしい音色や奏法、声部の役割と全体の響きの調和を感じ取っている。</p> <p>楽器の特徴を生かし、曲にふさわしい音色や奏法、声部の役割と全体の響きの調和を感じ取って器楽や合奏の表現を工夫している。</p>	<p>【器楽】 楽器の特徴や曲にふさわしい音色や奏法を生かして器楽表現をする技能（読譜力を含む）を身に付けている。</p> <p>声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合奏表現をする技能を身に付けている。</p>	
題材の評価規準	<p>箏の特性を理解し、箏固有の音色や響き（一音一音の張り、余韻等）、奏法（引き色、裏連等）の特色や効果に関心を持ち、意欲的に器楽表現に取り組んでいる。</p>	<p>箏の特性を理解し、箏固有の音色や響き（一音一音の張り、余韻等）、奏法（引き色、裏連等）の特色や効果を感じ取り、それらを生かした表現の工夫をしている。</p>	<p>箏の専門講師から直接学ぶことにより、箏の特性を理解し、箏固有の音色や響き（一音一音の張り、余韻等）、奏法（引き色、裏連等）の特色や効果を生かして器楽表現する技能を身に付けている。</p>	
単位時間における具体の評価規準	<p>箏固有の音色や響き、奏法の特色や効果に関心を持ち、意欲的に器楽表現に取り組んでいる。 （器楽）</p>	<p>箏固有の音色や響き（一音一音の張り、余韻等）、奏法（引き色、裏連等）の特色や効果を感じ取っている。 （器楽）</p>	<p>箏の特性を理解し、箏固有の音色や響き（一音一音の張り、余韻等）を生かした弾き方を身に付けている。 （器楽）</p> <p>箏の特性を理解し、箏固有の奏法（引き色、裏連等）を生かして演奏する技能を身に付けている。 （器楽）</p>	

3 指導と評価の計画（全3時間）

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	二種類の演奏を聴き比べることによって、その響きや音色の違いから、豊かな表現になるための曲にふさわしい表現の仕方を感じ取ることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>箏曲の豊かな表現の条件を見つけだし、今後の学習の見通しをもとう。</p> </div> <p>二種類の「つち人形」の演奏を響きや音色などに注意して聴き比べ、曲にふさわしい音色や奏法について交流し合い、学習プリントにまとめる。</p> <p>音の立ち上がりや余韻、引き色、裏連等の奏法が、響きや音色の違いであることに気付き、実際に箏で練習してみる。</p> <p>本時の振り返りをする。</p>	<p>イ - 箏固有の音色や響き（一音一音の張り、余韻等）、奏法（引き色、裏連等）の特色や効果を感じ取っている。</p> <p>ア - 箏固有の音色や響き、奏法の特色や効果に感心を持ち、意欲的に器楽表現に取り組んでいる。</p>	<p>観察 ・響きや音色の違いについての記述内容や発言内容から評価する。</p> <p>観察 ・練習に向かう姿勢や姿から評価する。</p>	<p>ゲストティーチャーによる合奏により、その違いがはっきりとわかるように演奏する。</p> <p>教師とゲストティーチャーがそれぞれ1箏、2箏に分かれて指導・援助する。</p>
2	箏の特性を理解し、箏固有の音色や響き（一音一音の張り、余韻等）を生かすために、弦を引く位置や強さに注意し、爪をしっかりと立てて弦をはじいたり、次の弦に当てて止めたりすることで、美しい余韻を出して弾くことができる。	<p>前時の復習をする。 ・「つち人形」を演奏する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>より美しい音色や響きをめざして練習しよう。</p> </div> <p>ゲストティーチャーの範奏を聴く。 ・弾く位置や強さによる響きの違い、余韻を聴く等のポイントをつかむ。</p> <p>弦の弾く位置、強さ、爪の立て方などに注意することで、張りのある音で美しい余韻が出せるように練習する。 ・個別練習で、自分の音色や響きをよく聴きながら練習する。</p> <p>本時の振り返りをする。</p>	<p>ウ - 箏の特性を理解し、箏固有の音色や響き（一音一音の張り、余韻等）を生かした弾き方を身に付けている。</p>	<p>観察 ・一つ一つの奏法の練習の姿から評価する。</p>	<p>ゲストティーチャーの演奏のポイントを一つ一つ解説する。</p> <p>教師とゲストティーチャーがそれぞれ1箏、2箏に分かれて指導・援助する。</p>

3	<p>箏独特の音色を生み出すために、引き色（弦をしっかりとつまんで柱（じ）の方へ引っ張る）や、裏連（爪の裏を使って、高音から低音に向かって連続して弾く）等の奏法を生かして、「つち人形」を合奏表現することができる。</p>	<p>前時の復習をする。 ・「つち人形」を演奏する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>発表会本番に向けて、引き色や裏連等の奏法を生かしてより豊かな表現を目指そう。</p> </div> <p>練習のポイントをつかむ。 ・箏独特の音色を生み出すための、引き色や裏連等の奏法をつかむ。</p> <p>個別に練習する。</p> <p>全体で合奏する。</p> <p>表現の高まりを振り返り、発表会に向けた決意をプリントにまとめる。</p>	<p>ウ - 箏の特性を理解し、箏固有の奏法（引き色、裏連等）の特色を生かした弾き方を身に付けている。</p>	<p>観察 ・引き色は、弾いた後に左手で、柱の左側の弦をしっかりとつまんで柱の方向に寄せ、半音余韻を下げるように弾く姿から評価する。 ・裏連は、トレモロをした後、爪の裏側を弦に乗せ、高音から低音に向かって軽くなぞるようにグリッサンドする姿から評価する。</p> <p>学習プリントへの記入内容から評価する。</p>	<p>ゲストティーチャーと教師による技術指導を行う。</p> <p>お互いのパートをよく聴き合うよう助言する。</p> <p>ゲストティーチャーと教師は、パートに別れて演奏する。</p>
---	--	--	---	---	---

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

箏独特の音色を生み出すために、引き色（弾いた後に左手で、柱の左側の弦をしっかりとつまんで柱の方向に寄せ、半音余韻を下げるように弾く）や、裏連（トレモロをした後、爪の裏側を弦に乗せ、高音から低音に向かって軽くなぞるようにグリッサンドする）等の奏法を生かして、「つち人形」を合奏表現することができる。

(2) 本時の位置

3 / 3時

(3) 展開案

題	学 習 活 動	評価について	指導・援助
つ か む / 高 め る / ま と め る	1 「つち人形」を前時までの学 習を生かして合奏する。 ・弾く位置、強さ、余韻等を意 識して演奏する。 2 本時の課題をつかむ		
	発表会本番に向けて、ひき色や裏連等の奏法を生かして より豊かな表現を目指そう。		
	3 練習のポイントをつかむ。 ・箏独特の音色を生み出すため の、引き色や裏連等の奏法を つかむ。 4 引き色やさーらりんをペア で練習する。 5 全体で合奏する。 6 表現の高まりを振り返り、 発表会に向けた決意をプリン トにまとめる。	ウ - 箏の特性を理解し、箏 固有の奏法（引き色、裏 連等）を生かして演奏す る技能を身に付けている。 観察 ・引き色は、弾いた後に左 手で、柱の左側の弦をしっ かりつまんで柱の方向に寄 せ、半音余韻を下げよう に弾く姿から評価する。 ・裏連は、トレモロをした 後、爪の裏側を弦に乗せ、 高音から低音に向かって軽 くなぞるようにグリッサン ドする。	

5 評価の実際と個に応じた指導事例
(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

評価規準<ウ - > 箏の特性を理解し、箏固有の奏法（引き色、裏連等）を生かして演奏する技能を身に付けている。
--

(2) 評価の実際

— 評価の方法 —

評価の方法

個人練習の観察

- ・個人練習の時間に一人一人を見て回り、引き色（弾いた後に左手で、柱の左側の弦をしっかりつまんで柱の方向に寄せ、半音余韻を下げないように弾く）や、裏連（爪の裏側を弦に乗せ、高音から低音に向かって軽くなぞるようにグリッサンドする）等を意識して演奏している姿から評価した。

— 判断の事例 —

判断の事例

「努力を要する状況」(C)と判断

- ・引き色の時に、弦をつまんだ指が滑ってしまい、余韻を下げることができない生徒、また、裏連の時に、スムーズに爪の裏側を弦に乗せることのできない生徒をCと判断した。

「十分満足できる状況」(A)と判断

- ・引き色では、余韻に音の「微妙な揺れ」を生み出したり、裏連では、トレモロから連続して行う時に「微妙なため」をつくり、タイミングを合わせて弾くことができる生徒をAと判断した。

(3) 個に応じた指導の実際 (Cと判断される状況への働きかけ)

引き色の時に、弦をつまんだ指が滑ってしまい、余韻を下げることができない生徒、また、裏連の時に、爪の裏側を弦に乗せることのできない生徒に、以下のように働きかけた。

引き色では、4小節前くらいから左手を六の弦の上に置き、準備を早目にするようにした。

引き色では、つまんだ弦を右に引く際、しっかりつまむことや小指で支えて引きやすくすること等を助言した。

裏連では、その前のトレモロを行うために右手の形を早めに作り、スムーズに裏連に入れるように練習させた。

裏連では、その前のトレモロの後で落ち着いて爪を裏返し、その後、弦の上を滑らせていくよう、ひとつひとつの動作をゆっくり落ち着いて行うようにした。

以上の ~ の指導に共通することは、それぞれの奏法を確実にを行うためにゆとりをもって準備をし、ゆっくり確実に行うことが大切であることをアドバイスした。

3年選択「箏」 学習プリント(本番直前!!)

組 氏名 _____

本番に向けて、より豊かな表現を目指して合奏しよう。

<本日の練習のポイント>

- ・箏特有の奏法である「引き色(ひきいろ)」や「裏連(うられん、またはさーらりん)」などの特色を十分生かした表現にしよう。

引き色

裏 連

1. 個別で練習しよう。

2. ペアで聴き合いアドバイスし合おう。

3. 学習を振り返り、本番に向けた決意を書こう。

